

# 楽しい皆野町探検

2006年1月29日 ぽかぽか陽気の冬の日 晴れ

皆野町役場 午前10時 現地集合

案内していただいた方 宮原昇三先生 ガイド時間 10時~16時15分

「皆野は何も無いよ」という失言から始まったこの企画、失言者の私が計画することになってしまった。どうしたものかと悩んだ末に、子どもが使っていた郷土かるたのことを思い出し、それを題材に宮原昇三先生にお願いしてレクチャーしてもらった。

すると、皆野にも文化遺産がたくさんあり、先生のわかり易く面白い解説と夕食のカツライスが仲間に好評で、実際に見てみたいという話になり、再度宮原先生にお願いして皆野町を探検することになった。

1月末の日曜日、この日は、晴天にめぐまれ絶好の探検日和であった。

皆野町役場を10時に出発し三沢へ向かう。

## 曾根坂の一里塚

一里塚は道路工事のため100m程南に移動されてしまっていた。曾根坂峠は秩父市栃谷と三沢の間にある峠で、三沢を経て現在の東秩父から小川町へ、そして川越へとつながる交易上重要な商業の道であった。今でこそ、都内とつなぐ道は、関越自動車道~国道140号線といった寄居~長瀨~皆野~秩父ラインが主流であるが、昔は川越~小川~東秩父~三沢ラインが主流であったことを窺わせる。



## 武蔵川親方の碑



第16代武蔵川大治郎碑で、生家の屋敷下に建つ。大治郎は江戸時代の力士であり文久三年(1863年)年寄となり角界に大きな功績を残している。

金崎に移動する。

### 金崎古墳群・長興寺の石仏群

金崎古墳群は天神塚古墳群と大塚 1～3号墳の4基の円墳が残されており、6世紀後半から7世紀前半に作られたと考えられている。結晶片岩の割石を積んだドーム状の美しい造りとなっており、写真は古墳の上部である。



長興寺の境内墓地にはたくさんの五輪の塔と宝きょう印塔がある。青石塔婆とよばれている石板塔婆(板碑)が見られ、2ヶ所とも古い歴史を感じさせる場所であった。



### 永保社跡



続いて永保社跡の見学。

歴史が新しくなる。

立派な門をくぐる時多数の傷跡がある説明を受けた。永保社は株式による本県で最初の銀行と言われ、秩父事件の蜂起前夜、困民党の襲撃を受けたことで知られている。先ほどの門の傷跡がそれを物語っている。

門をくぐって外観



永保社 2階広間

## 国神大銀杏

県指定天然記念物の国神の大銀杏は、樹齢約 700 年と言われ、樹周 8. 2 m、高さ 22. 7 m、枝張り南北に 16. 3 m 東西 12. 7 m ある立派な木だ。大銀杏の周辺には、かつて数基の古墳が所在したといわれ、知知夫彦命の墓の脇に植えられたものと云われている。ここは「国見の丘」と呼べる場所に当たっているようで、以前から私が住んでみたいと思っている場所のひとつだ。(写真は秋の大銀杏)



次は金沢にまわる。

## 西福寺の家形墓石群

西福寺にある家形墓石群はかくれキリシタンの墓だとする伝説がある。出牛(じゅうし)という名はゼウスからきていると言われ、かくれキリシタン伝説を盛り上げる。



## 辻堂の絵馬

辻堂の絵馬は金沢村生まれの日本画家、今井琴谷の画。山の上から大きな岩を担ぎ下ろしている様子が描かれており(左写真)、その岩は辻堂裏に安置されている。(右写真)



## 正法寺の絵馬

正法寺は秩父札所の番外であるが、児玉筋から秩父路へ入る巡礼者が立寄る慣わしがあり「お手引き観音」とも言われていた。

勝川春清(江戸時代中期の浮世絵師の描く「玉取り姫」の大絵馬はこの観音への信仰の篤さと往時のにぎわいを伝える貴重な資料となっている。残念ながら絵馬は外からしか覗けず撮影は出来ませんでした。



車をしばらく走らせ日野沢の重木地区に入る。

## 重木集落・村上泰治の墓

ここから山道を歩く、天気がいいのでちょっぴりハイキング気分になる。途中、先生が道を間違えるハプニングもあったが、あくまでも移動手段が自分自身の足で歩いていた時代には、日当りの良い山の上で暮らすことに不自由さは感じられなかった。むしろたびたび洪水に悩まされる下流地域より秩父に文明が開かれたことも納得が行く話であることを実感した。



そして、秩父事件の秩父自由党第1号となった中庭蘭溪と蘭溪亡き後秩父自由党の幹部となった村上泰治の墓を見学する。山奥にあったがきれいに整備されていた。



昼の時間もずいぶん過ぎ、お腹も空いてきたので皆野の街へ戻り、F屋で蕎麦を頂く。美味しかった。余談だが、ここの鴨汁そばが好きで良く食べに来る。最近「中盛り」と言って普通と大盛の中間のものを同級生のよしみで作ってもらっている。お勧めである。

元気の出たところで、探検再開

## 円福寺

ここには、平将平と畠山重能の墓と呼ばれる2基の五輪塔がある。凝灰岩の五輪塔で損傷が激しいが現存する部分から当時の大きさを推測すると190cm位の堂々たる造りであったようだ。

平将平は、有名な将門の弟であり、畠山重能は畠山重忠の父である。平家物語にも登場し平氏と源氏の歴史ロマンに興味をわいてくる。

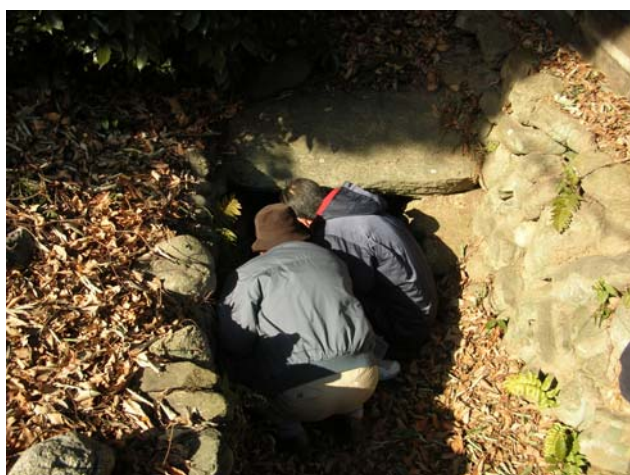


## 大塚古墳

県指定の史跡で墳丘の直径約30m、高さ約6mで、秩父盆地内の盛土古墳としては最大の規模を誇っている。正確な年代は判っていないが、石室の形態から7世紀前半のものと考えられている。

ところで、中へ入ってみるとベンチが入れられ、昨日今日のものとは思えない飲食の残骸が…

悠久の浪漫もへったくれもない。公共マナーは大切に！



大塚古墳入り口



大塚古墳内部

## 小池氏館跡

今も中世築庭の様式がうかがい知れると云われる名園である。

池のほとりに佇むと武甲山を借景とした素晴らしい景色が広がり往時が偲ばれる…



池の形が「心」

楽しい「皆野探検」の1日であった。  
時間の都合で回れなかったが、この他にも見所はいっぱいある。  
「みんなの皆野」我がふるさと、いいところですよ

皆野町役場 午後4時15分解散